

ながの植物防疫

一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837
長野市大字南長野字幅下667-6
長野県土木センター内
電話 026-235-3510
FAX 026-235-3583



新年を迎えて

一般社団法人長野県植物防疫協会
会長 北原富裕

明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、平素より協会の事業推進にご理解・ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。また、昨年5月30日に開催いたしました創立70周年記念式典におきましては、多くの皆様にご参加いただき盛会裏に終えることが出来ましたこと改めてお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日の能登半島地震をはじめ、全国各地で地震や豪雨災害が相次ぎました。被災地での復旧・復興は未だ道半ばであり、今後一刻も早い進展が望まれます。また、世界に目を向ければ、ウクライナや中東での戦禍は依然として続いております。今年こそは、国内も海外も平穏・平和な日常が戻る年となることを願うばかりです。

さて、昨年の県内の農業生産は、果樹・水稻でのカメムシ、野菜等でのハスモンヨトウなど害虫発生は多かったものの、大きな気象災害は無く、農作物全般としては作柄は良好で、価格も比較的好調に推移した年となりました。

一方で、酷暑の夏、過去最高気温を記録した秋など、地球温暖化の影響は年々顕在常態化するとともに、生産資材価格は値上がりしており、農業を取り巻く生産・経営環境は今後も厳しい状況が続くと推察されます。

この様な情勢の中で、農業構造の脆弱化や担い手減少に対応し、食料安全保障の確保、農業のグリーン化やスマート農業などを推進するため、食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正されました。今年は、改正基本法に基づく新たな基本計画が策定され具体的な施策が推進されることとなります。植物防疫の分野においても、みどりの食料システム戦略への一層の対応が求められることになると考えます。

当協会は、使用者暴露試験や作物残留試験等の受託試験を始め、植物防疫事業における新たな課題に対して、県農政部や日本植物防疫協会等の関係機関・メーカーと連携を密にして取り組んでまいりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

今年の干支「乙巳（きのとみ）」は、「これまでの努力や準備が実を結び始める年」とされます。本年が皆様方にとって実り多き年となりますこと、また関係各位の益々のご健勝と長野県農業の発展をご祈念申し上げ新年のごあいさつといたします。



新年あいさつ

長野県農業試験場長 山口光彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より試験研究の推進にご支援とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、6月下旬から10月にかけての異常な高温や局地的な大雨など、改めて温暖化の影響を痛感させられた年でした。また、先行きが見通せない国際情勢や円安の影響などにより、エネルギー価格はもとより、肥料・飼料価格が大幅に上昇し、農業者の皆さまの経営に大きな影響が生じたことと思っております。

このような気候変動や国際情勢の変化に加えて、SDGsなど地球環境を重視する動きが加速する中、農業現場においては、生産力向上と環境に負荷をかけない持続可能な農業の両方を実現する技術開発が必要不可欠となっております。さらに、人・モノの国境を越えた移動の増加により、新規病害虫の侵入やまん延リスクの高まりなど植物防疫体制の強化、化学合成農薬に頼らない総合防除の一層の推進も求められています。

農業関係試験場では、令和5年度に策定した長野県農業関係試験研究推進計画「農業技術ステップアッププログラム」において「生産力を強化し収益性を高めるための技術開発」と「地球環境に配慮し持続可能な農業を実現するための技術開発」を2本の柱に据え、多様なニーズに応える品種育成、時代の変化に応じた先進技術、生産現場の課題を解決するための安定生産技術、地球温暖化対応、環境負荷軽減などの技術開発を進めていますので、今後とも、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、(一社)長野県植物防疫協会の益々のご発展と関係の皆様方のご多幸をご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

◇新年あいさつ……………1	◇植防短信
植物防疫会長	長野県農業管理指導士の認定・更新について……………5
農業試験場長	令和6年度病害虫防除研修会について……………6
◇令和6年の病害虫発生を振り返って……………2	◇地域情報
◇無人航空機による農業の空中散布について……………3	諏訪……………6
◇話題の病害虫	上伊那……………7
コムギ赤かび病について……………4	◇協会だより……………7

令和6年の 病害虫発生を振り返って

長野県病害虫防除所

1 水稻

アメダスデータを用いた葉いもち感染好適条件の判定の結果、7月中旬以降に葉いもち感染好適条件を示す日数が全県で多くなり、各地で葉いもちの発生がみられ、一部のほ場では発病株率が急増した。そのことから、7月19日に全県を対象にイネいもち病（葉いもち）の注意報を発出し、注意喚起した。

注意報発出後は梅雨明けもあり好天に恵まれ、葉いもちの病勢は概ね停滞し、穂いもちは常習発生地等でのみ発病穂率の高いほ場がみられるに留まり、県全般的には概ね平年並の発生となった。

斑点米カメムシ類は、7月の巡回調査での捕獲頭数が全県的に平年と比べ多かった。特に、南信地域では平年と比べかなり多い結果であった。引き続き高温傾向が継続し、斑点米カメムシ類が活発に行動する恐れがあると予想されたことから、7月31日に斑点米カメムシ類に対する地区注意報を発出し、注意喚起した。その後の病害虫発生予察ほどの調査では、斑点米被害粒は平年と比べ多い結果となった。本年の主要な発生種は、従来の「アカヒゲホソミドリカスミカメ」ではなく「アカスジカスミカメ」「ホソハリカメムシ」であった。

2 麦類

コムギ赤かび病に対するクroppナビを用いた「コムギ赤かび病感染予測システム」において、6月初旬までに感染好適条件日、準感染好適条件日が出現し、引き続き感染好適条件が続くと予想されたことから、6月3日にコムギ赤かび病に対する注意報を発出し、注意喚起した。その後の巡回調査において、6月中旬以降に南信地域の一部のほ場で発病穂が多くみられた。

3 果樹

リンゴ褐斑病は、巡回調査ほでは7月下旬から果そうに発病がみられた。発生量は平年並～やや多い結果であった。また、調査ほ周辺の一部ほ場では発病果や早期落葉もみられた。

リンゴ炭疽病は、巡回調査ほでは、9月上旬から果実に発病がみられた。発生量は平年と比べやや多く、地域や品種によっては輪紋病も併発しており減収となったほ場もみられた。薬剤防除の散布間隔があいたほ場、過繁茂等で薬液がかかりにくい樹では特に発病が多く、降雨による他果実への二次伝染より被害が拡大したほ場もみられた。

りんごのハダニ類は、巡回調査ほでは、ナミハダニは5月下旬、リンゴハダニは6月上旬から成若幼

虫の発生がみられた。発生量はリンゴハダニが平年並、ナミハダニが平年並～やや多い結果であった。こちらも、薬剤防除の散布間隔があいたほ場では、9月以降も多発傾向であった。

カメムシ類は、5月21日に南信地域においてカメムシ類が多発生する恐れがあると予想されたことから、地区報を発出した。その後、なし、もも、りんご、うめ等の巡回調査ほで、成虫の発生が平年と比べ多くみられた。特に、山際近隣のほ場では、果実の吸汁被害が多くみられた。

ブドウ黒とう病は、巡回調査ほでは、6月下旬に北信地域の一部のほ場において、新梢と葉に発病がみられた。発生は欧州系品種を中心に、平年並～やや多い結果であった。本病も、薬剤防除の散布間隔があいたほ場や薬剤がかかりにくい樹の副梢等で発病がみられた。

4 野菜

果菜類の病害では、トマトで梅雨期以降に灰色かび病の発生がみられた。また、一部の巡回調査ほでは、輪紋病や葉かび病の発生もみられた。露地栽培のきゅうりでは、7月下旬以降の降雨の影響により、べと病、炭疽病の発生がみられ、施設栽培のきゅうりでは、年間を通してうどんこ病の発生がみられ、9月以降では、べと病、褐斑病の発生もみられた。

果菜類の害虫では、県内の各地でアザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類の発生がみられたほか、特に露地のトマトでオオタバコガ幼虫による果実食入被害が目立った。

8月中旬に、北信地域のトマト栽培施設の横に設置した侵入警戒病害虫の一つである「トマトキバガ」のフェロモントラップに雄成虫が誘殺され、検体を名古屋植物防疫所に検体を送付し同定を依頼したところ、トマトキバガであることが確認され、8月22日付で特殊報を発出し、注意喚起した。その後、南信地域の一部のほ場でもトマト葉への被害も確認されたことから、9月19日付で病害虫情報を発出し、全県を対象に注意喚起した。

アブラナ科野菜の病害では、主に東北信地域のキャベツでは、べと病、黒腐病、株腐病、菌核病が、ブロッコリーでは、べと病、黒腐病が、はくさいでは、ピシウム腐敗病の発生が目立った。一方、細菌性病害は少雨の気象条件であった時期や場所では、一部での発生にとどまった。アブラナ科野菜の害虫では、チョウ目害虫の食害が県内各地で栽培期間を通してみられ、今年は9月以降も高温で推移したことからハスモンヨトウやオオタバコガによる被害が一部地域で多発した。

レタスの病害では、東北信地域で、すそ枯病が目立ち、9月下旬まで発生がみられた。また、県内各地で斑点細菌病がもみられ、発病は10月中旬まで続いた。レタスの害虫では、ハモグリバエ類の食害痕

が一部のほ場でみられた。発生量は、平年と比べやや少なかった。

アスパラガスでは、露地栽培を中心に、6月上旬から茎枯病の発生がみられ、7月以降は各地のほ場で茎枯病の発生株率が増加した。斑点病も7月下旬

以降、露地栽培を中心に発生がみられたが、発生量は平年並であった。アザミウマ類、アブラムシ類は、5月上旬から発生がみられ、寄生株率も平年と比べやや高かった。また、一部の雨よけ栽培ほ場では、ハダニ類の発生も多い傾向であった。

無人航空機による農薬の空中散布について

長野県農政部農業技術課

無人航空機による農薬の空中散布は、短時間で大面積を散布することができるため、省力化技術として利用されているが、空中を飛行させることから十分な安全対策を講じる必要がある。また、農薬散布を行う無人航空機は主に無人ヘリコプター（以下無人ヘリ）と無人マルチローター（以下ドローン）に大別されており、共通する点が多いものの、異なる点もある。そこで国や県で制定しているガイドライン等により、共通する安全対策と異なる点について解説する。

1. 安全対策のためのガイドライン等

国は、無人航空機の適正かつ安全な利用のために、「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン（以下「無人ヘリガイドライン」）という」及び「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」を制定している。また、県では、県内におけるより一層の適正な空中散布の実施を目的として、「長野県無人航空機利用空中散布作業指導要領（以下「要領」という）」を制定している。この中で、特に空中散布の実施に関する共通部分は主に以下の4つが挙げられている。

(1) 農薬の空中散布の計画

実施主体は、農薬の空中散布実施区域周辺の地理的状況及び耕作状況について十分に勘察し、実施区域及び実施除外区域を設定し、使用薬剤の種類及び剤型の選定等、計画について検討を行い、実施場所、実施予定日、作物名、散布農薬名、10a当たりの使用量もしくは希釈倍数等について記載した農薬の空中散布計画書を作成する。

(2) 農薬の空中散布の実施に関する情報提供

空中散布の実施区域及びその周辺に学校、病院等の公共施設、家屋、蜜蜂の巣箱、有機農業を行っているほ場等がある場合には、実施主体は、危害防止対策として、当該施設の管理者等に対し、農薬を使用する日時、農薬使用の目的、使用農薬の種類、実

施主体への連絡先等を情報提供し、必要に応じて使用日時を調整する。特に人が往来するような場所は、作業中の実施区域への進入等を防ぐため告知や表示等必要な措置を講ずる。

(3) 実施時に留意する事項

実施主体は、周辺環境等への影響に十分に配慮し、風も考慮した飛行経路を設定する。この時、機体等の製造メーカーが作成した取扱い説明書を参考に、機体の性能を理解し、飛行速度及び高度を決定する。

また、操縦者は散布の際に気象条件の変化を随時確認しながら、ドリフトがないように十分注意する。なお、あらかじめ架線等の危険な箇所や操縦者の動線等についても確認を行い、実施区域の状況把握に努めること。特に収穫間際や有機農業のほ場、公共施設等への農薬による危害には細心の注意が必要である。

(4) 農薬の空中散布の実績

空中散布の実績は、航空法の規定に基づき、飛行記録等について飛行日誌に記載する義務だけでなく、農薬を使用する者が遵守すべき省令においても使用後の帳簿の記載は義務付けられている。

2. 無人ヘリとドローンの違い

(1) 情勢

いずれも大面積の散布においては省力散布が可能な技術だが、無人ヘリの方が飛行速度は速いため、より大面積での散布においては有利な面がある。しかし、事前準備や操作性等の利便性、コスト等により県内においてはドローンによる散布面積が拡大している。

(2) 計画及び実績の提出

いずれのガイドラインにおいても計画及び実績の作成について定められているが、提出については無人ヘリとドローンによって扱いが異なっている。無人ヘリにおいては、無人ヘリガイドライン等により計画及び実績の提出が定められており、ドローンにおいては、要領において実績の提出を求めている。なお、いずれにおいても提出先は県病害虫防除所となっている。電子申請も可能となっているため活用いただきたい。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/shinsei/mujinheri.html>)



また、いずれにおいても上記の提出のほか、農薬の散布は航空法第89条に定める物件の投下に当たるため、事前に国土交通大臣の許可及び承認を受ける必要がある。

最後に、今回紹介したのはあくまで主な安全対策であり、農薬取締法及び航空法の遵守も重要である。

無人ヘリ及びドローンによる農薬散布を考えている場合は、関係法令を十分理解し、適切に利用する必要がある。一般社団法人農林水産航空協会では、無人ヘリ及びドローンの安全対策マニュアルを作成しており、航空法等についても詳しく記載されている。また、クロップライフジャパンでもドローン散布安全チェックブックを新たに作成しており、事前に確認すべき事項などがわかりやくまとめられている。

また、長野県植物防疫協会農林航空部会では毎年農林水産業に用いる無人航空機安全利用研修会を開催しており、本年度も3月に開催予定である。詳細については改めて周知するので、参加をお願いする。

話題の病害虫

コムギ赤かび病について

農業試験場 中島宏和

1. コムギ赤かび病とは

コムギ赤かび病は主に*Fusarium*属菌によって引き起こされる病害である。本病は主に穂に発病し、収量低下を招くのみではなく、病原菌によって生成されるデオキシニバレノール (DON) 等のマイコトキシン (かび毒) によって食品衛生上の汚染が引き起こされることから重要な防除対象病害とされている。病原菌は罹病残渣中の子のう殻で越冬し、翌年の伝染源になる。春になると降雨に伴って一次伝染源から子のう胞子が飛散し、穂に感染する。特に開花期以降に感染しやすく、高温多雨条件で発病が助長される。感染した穂には分生子が形成され、周囲の穂へ二次伝染する。

感染すると、まず一部の小穂が褐変し、徐々に拡大して穂の一部または全部が褐変枯死する (写真1)。湿度が高いと穎の合わせ目から鮭肉色の分生子胞子塊を生じる (写真2)。県内では、6月上旬頃



赤かび病の罹病穂 (写真1)

分生子胞子塊 (写真2)

が穂の発病状況の観察適期となる。

2. 近年の発生状況

本県において小麦の開花期に相当する5月上中旬は、降雨があっても降雨に伴って肌寒く感じるくらいまで気温が低下して、感染に至ることはほとんどなかった。しかし、近年は気象変動などによると思われる影響によって降雨があっても暖かく、梅雨のような雨になることがある。このような気象は赤かび病の感染好適条件となる場合が多い。須坂市で観測したコムギ赤かび病感染予測システムによる5月の感染好適条件の出現頻度は2015~2020年まで0~1回であり、赤かび病の発生は無~微であったが、2021年~2023年は2~3回観測され、多発生相当の圃場が増えている。このことから気象条件的にも赤かび病の発生リスクは増加傾向であると考えられる。

3. 県内主要品種の品種間差

県内の小麦の主要品種はコムギ赤かび病に対する発病程度に品種間差が認められる。相対的な比較において外部病徴による発病程度は「東山53号 (ハナチカラ)」が高く、「東山55号 (しろゆたか)」、「ゆめきらり」、「しゅんよう」、「シラネコムギ」、「ユメセイキ」、「ゆめかおり」はやや低い (図1)。また、「東山53号 (ハナチカラ)」は「ハナマンテン」と比較しても発病程度が高い。「東山53号 (ハナチカラ)」は他品種と比較して重症穂が多いことから、感染した後に発病の伸展を抑止する伸展抵抗性が低いと推定された。しかし、いずれの品種も抵抗性は高くはないため、品種に関わらず、開花期の予防防除を徹底することが重要である。多発が予想される場合は10~14日後を目途に追加散布する。「東山53号 (ハナチカラ)」は発病しやすいため、特に注意が必要である。

4. ドローンによる防除

近年、県内においても省力的な防除方法としてドローンによる薬剤散布が小麦作でも急速に普及して

いる。2021～2024年の自然発生の中～多発生圃場において、シルバキュアフロアブル、トップジンMゾル、ミラビスフロアブルまたはワークアップフロアブルを用いてドローンによる高濃度散布と地上散布の防除効果を開花期1回散布で比較したところ、ドローンによるコムギ赤かび病に対する防除効果は地上散布と同等からやや低い傾向であった。ドローンによる薬剤散布は散布時の風等の影響によって散布ムラが生じやすいため、なるべく無風の時間帯に散布し、有効散布幅を守って均等に散布できるように注意する。

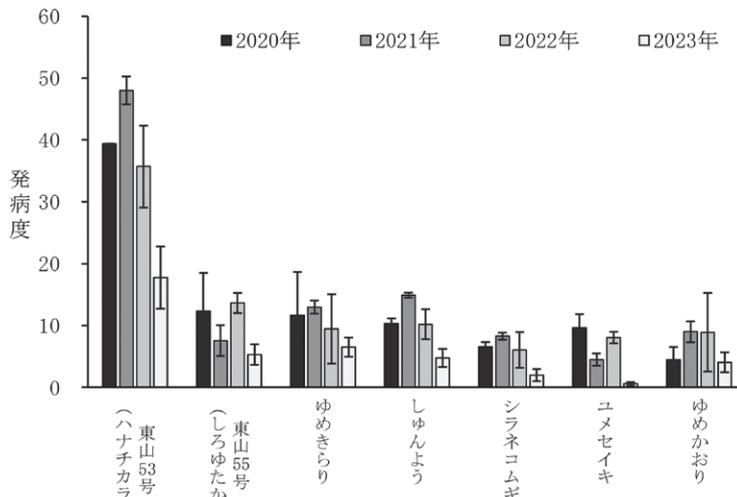


図1 コムギ赤かび病に対する各品種の発病程度の年次間比較(接種試験)

植防短信

長野県農薬管理指導士の認定・更新について

長野県農政部農業技術課

県では毎年、農薬の使用・販売等に携わる者に対して農薬に関する専門的な研修（養成研修（認定研修を含む）及び3年毎の更新研修）を実施することにより、県が認定する資格「長野県農薬管理指導士（農薬使用者に対して農薬の適正かつ安全な使用を指導・助言する者）」を養成し、農薬の安全使用の推進を図っています。

また、国の「住宅地等における農薬使用について」の通知（以下「住宅地通知」という）では、県や市町村等の地方公共団体が管理する施設における植栽の病害虫防除等を実施するにあたり、入札の資格要件として、業務実施上の責任者が、地方公共団体が指定する研修を受けていること又は当該地方公共団体が指定する資格（農薬管理指導士等）を有していることなどの具体的な取組事例が示されています。

このため、県では毎年6月頃に開催している農薬適正使用研修会と今回実施する長野県農薬管理指導士更新研修会を、住宅地通知に規定する定期的な参加を要する研修会と位置付けています。

令和6年度の研修会の期日等につきましては次のとおりです。

○長野県農薬管理指導士養成研修会及び認定試験

1 対象者

長野県内に住所または勤務先を有する満20歳以上の農薬取扱者等で、現に農薬取扱業務に従事し

ている者。

2 期日及び開催方式

令和7年2月20日（木）

オンライン研修

令和7年2月21日（金）

集合研修及び認定試験

場所 長野県総合教育センター 講堂

（塩尻市大字片丘南唐沢6342番地4）

○長野県農薬管理指導士更新研修会（住宅地通知指定研修）

1 対象者

(1)農薬管理指導士認定期間満了者

(2)農薬管理指導士認定試験免除者

(3)植栽等の防除業者等

2 期日及び開催方式

令和7年2月18日（火）

令和7年2月26日（水）

両日ともオンライン研修

同様の内容となりますので、どちらかの期日を選択ください。

各研修会の申し込み方法等の詳細は長野県公式HPに掲載しておりますのでご覧ください。なお、期限は令和7年1月15日となっておりますのでお早めに申し込みお願い致します。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/shidoshi.html>)



令和6年度病害虫防除研修会について

長野県病害虫防除所

昨年のカメムシ類の発生状況は全国的にも多く、愛媛県、広島県、鳥取県では病害虫発生予察情報の警報が発出されました。長野県においても5月21日に果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）による被害が多発する恐れがあるとして病害虫発生予察地区報（地区注意報）を発出しました。

このような状況に基づき、今年度は果樹カメムシをはじめとしたカメムシ類の発生生態や最新の防除実例などを関係者で情報共有し、充実した翌年のカメムシ類対策を推進できるよう下記のとおり開催します。

記

- 1 日時 令和7年2月25日（火）13時～16時
- 2 開催場所 長野県総合教育センター講堂
塩尻市大字片丘南唐沢6342-4
電話：0263-53-8800
- 3 研修事項

- カメムシの発生生態と防除対策
～生態を知って対策を考える～
明治大学 農学部 教授 糸山 亨 氏
 - 長野県果樹における侵入警戒病害虫について
長野県病害虫防除所 果樹担当
 - 温暖化が果樹害虫の発生に及ぼす影響について
（仮題）
長野県果樹試験場 研究員 簗島 萌子 氏
 - 日本なしにおけるナシ黒星病の特徴と防除対策
について（仮題）
長野県南信農業試験場 研究員 萬田 等 氏
- 4 申込方法
次のQRコードからお申し込みください。



地域情報

タブレット端末とGISアプリケーションを用いたテンサイシストセンチュウ対策の取り組み

諏訪地域ではタブレット端末を用いた重要病害虫対策に取り組んでいます。テンサイシストセンチュウ（*Heterodera schachtii*;以下Hs）は検疫有害動植物に指定される重要病害虫で平成29年に国内で初めて諏訪郡原村で確認されました。それ以降、諏訪地域では国と連携し再発・蔓延防止対策を講じています。Hsが発生したほ場では国による緊急防除が行われ、これによりHs検出限界以下となったほ場では、ブロッコリーなどの作付けが再開しています。しかしHsは営農再開後も作付け3回までは国による追跡調査（フォローアップ調査）が行われ、検出されれば再び緊急防除となってしまいます。対策として連作回避や効果のある土壌消毒、密度を低減させる捕獲作物（コブ減り大根、シスクリーン）の導入が重要ですが、点在する発生ほ場の位置を確認しながらの指導は難しく、効率的に対策を進める上で大きな課題となっていました。そこで諏訪農業農村支援センターでは、タブレット端末に営農管理ソフトZ-GISを導入し、誰でも対象ほ場が特定できる体

制としました。これにより指導機関の職員がほ場情報を共有し、分担して地域の栽培指導を行っています。今後もこれらスマート機器を活用し、Hsの再発とまん延防止に取り組んでいく予定です。

（諏訪農業農村支援センター 北林 聡）



りんご高密度植栽培園地のハダニ類防除に関する研修会を開催しました

上伊那地区ではハダニ類の発生生態について十分把握されておらず、特にりんごではその多発が問題となっています。長野県では、現地で簡易的に調査するビーティング法を平成20年度に普及に移す農業技術としていますが、生産者に対し周知する必要が

あります。

そこで、ハダニ類の適期防除の実施のため、生産者自らがハダニ類の発生状況を把握できるよう研修会を6月12日に開催しました。

研修では病害虫の専門技術員を講師に、ハダニ類の防除について講習をしていただきました。そこで、ハダニ類の生態を学び、薬剤抵抗性を起こさないためのローテーション防除や天敵のカブリダニ類活用の有効性について学びました。

また、研修会では適期防除のためにハダニ類の発生活長を捉えるため、「ビーティング法」についても実演がありました。ビーティング法は、りんごの新梢に寄生するハダニ類を黒色板上に叩き落とすことで、簡易的に現地で発生状況を調査できる方法です。参加者からは、「カブリダニ類とハダニ類の見分けが難しいが、簡単に調査ができるため、適期防除ができるようにこの方法を取り入れていきたい。」などの感想が聞かれました。発生活長を抑えることで、

ダニ剤の使用回数の削減にもつながるため、今後も、ハダニ類の適期防除につながるよう「ビーティング法」の普及を図っていきます。

(上伊那農業農村支援センター 堀 琴音)



6月12日の研修会の様子

協会だより

令和7年版

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」
発行のお知らせ

★★★ 安全・確実な防除のための1冊 ★★★

病害虫・雑草防除の基本事項が集約されています。農業の効果的な使い方、安全を確保する正しい使い方、総合的病害虫雑草管理（IPM）など環境にやさしい農業活動の実践のため、病害虫・雑草防除基準を活用しましょう。

令和7年2月上旬発行予定

価格：900円（消費税込み、送料別途）

○購入方法

①長野県植物防疫協会ホームページから注文
アドレス

<https://www.nagano-ppa.jp/bojokijun.html>

「お問合せ」フォームに名前、メールアドレス、住所、電話番号を入力し、「お問合せ事項」に申込部数を入力して送信。

②FAXで注文

長野県植物防疫協会ホームページから「注文書」をダウンロードして、必要事項を記入の上、ファックスで注文。

FAX番号 026-235-3583

③電話で注文

電話番号 026-235-3510 (一社) 長野県植物防疫協会

発生予察用調査資材の斡旋について

効率的かつ根拠に基づいた防除やIPMの実践などには、病害虫の発生を予測する情報等が欠かせません。当協会では、(一社)日本植物防疫協会が取り扱う発生予察用調査資材を斡旋していますので、活用して下さい。

次ページに示す資材を斡旋していますが、それぞれの製品は防除目的に使用しないことが前提です。購入希望の方は、本協会のホームページ (<https://www.nagano-ppa.ne.jp/yosatsu.html>) から申し込んでください。

【行事】

- 11月7日 第33回全国産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会(熊谷市)
- 11月14日 「ながの植物防疫」編集委員会(長野市)
- 11月18日 農作物病害虫・雑草防除基準編集委員会(須坂市)
- 12月4日 朝日税理士法人会計指導(長野市)
- 12月11日 病害虫発生予察事業成績検討会(松本市)
- 12月17日 農業等普及展示事業成績検討会(長野市)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。

URL <https://www.nagano-ppa.jp/>

斡旋する発生予察用調査資材

(消費税込・送料サービス 取扱商品及び価格については予告なく変更になる可能性があります) R6.12.1 現在

	品目(対象害虫名)	社名	備考	本体価格	品目(社名)・内容	備考	本体価格	色指定		
水稲野菜関係	ニカメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円	茶 関 係	チャノコカクモンハマキ用	住友化学	12個	9,900円	—
	コブノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
	アカスジカスミカメ用	アース製薬	12個	8,250円		チャハマキ用	住友化学	12個	9,900円	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ用	信越化学工業	12本	8,250円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
	アワノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		チャノホソガ用	サンケイ化学	12個	13,750円	—
	フタオビコヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		チャドクガ用	サンケイ化学	2個	11,000円	—
	イネヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円	粘 着 式 ト ラ ップ	住化式粘着トラップ(住友化学)	セット(屋根1・粘着板12)	4,950円	—	
	マメシンクイガ用	信越化学工業	12個	8,250円		屋根のみ	6台	5,170円	—	
	ハスモンヨトウ用	住友化学	8個	12,980円		粘着板	12枚	3,740円	—	
	シロイチモジヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円		SEトラップ(サンケイ化学)	セット(屋根1・粘着板12)	4,730円	白・緑	
	ヨトウガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		屋根のみ	6台	3,960円		
	オオタバコガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着板	12枚	4,070円	—	
	タバコガ用	サンケイ化学	12個	13,750円		100枚	31,900円	—		
	カブラヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		小型粘着板(クワシロカイガラムシ用)	(サンケイ化学)	100枚	16,500円	—
	タマナヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		アカヒゲ・アカスジカスミカメ用トラップ(アース製薬)	粘着ネット	6枚	5,445円	—
	タマナギンウワバ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
	コナガ用	住友化学	12個	9,350円	ファネルトラップ	(サンケイ化学)	1台	4,950円	—	
	アリモドクゾウムシ用	サンケイ化学	12個	11,000円	住化式乾式トラップ	(住友化学)	1台	6,600円	—	
	果樹関係	モモシンクイガ用	住友化学	12個(2ヶ月)	11,770円	乾 式 ト ラ ップ	AUトラップ	(信越化学工業)	1台	11,000円
ナシヒメシンクイ用		サンケイ化学	12個	11,000円	コガネコール・マダラコール用誘引器(サンケイ化学)		1台	7,480円	黄	
リンゴコカクモンハマキ用		住友化学	12個	9,350円	1台		7,480円	白		
リンゴモンハマキ用		信越化学工業	12個	8,250円	1台		13,200円	透明		
コスカシバ用		信越化学工業	12個	8,250円	ITシート(サンケイ化学)10巻入り		1箱	15,510円	黄	
ヒメコスカシバ用		信越化学工業	12個	8,250円	粘 着 シ ー ト					
モモハモグリガ用		サンケイ化学	12個	11,000円						
キンモンホソガ用		サンケイ化学	12個	11,000円						
モモノゴマダラノメイガ用		サンケイ化学	12個	11,000円						
チャバネアオカメムシ用		サンケイ化学	10本	22,000円						
スモモヒメシンクイ用		信越化学工業	12個	8,250円						
ミダレカクモンハマキ用		信越化学工業	12個	8,250円						
クビアカスカシバ用		信越化学工業	12個	8,250円						
ヒメボクトウ用		信越化学工業	12個	8,250円						
カシノナガキクイムシ用		サンケイ化学	2個	17,600円						
ナシマルカイガラムシ用セット		サンケイ化学	5個専用粘着板20枚	13,200円						
アカマルカイガラムシ用セット		サンケイ化学	5個専用粘着板20枚	13,200円						
芝関係その他		マメコガネ用	サンケイ化学	コガネコールA		5,280円				
		シロテンハナムグリ・アシナガコガネ・ヒラタアオコガネ用	サンケイ化学	コガネコールC		5,280円				
	カミキリ・ゾウムシ・キクイムシ・ハバチ等針葉樹寄生性昆虫用	サンケイ化学	マダラコール	5,500円						
	スギノアカネトラカミキリ用(アカネ)	サンケイ化学		9,680円						
	訪花性昆虫(ハナムグリ、ハナカミキリ、ハチ等)	サンケイ化学	アカネコールBA	12,100円						